

旅行のプロに聞く

南北アメリカの 絶景スポット

P.03



©Yuichi Takasaka



©Shinichiro Ueda



© Yuki Sakoh



©US-I Connect, Inc.



©Amnet New York Inc.



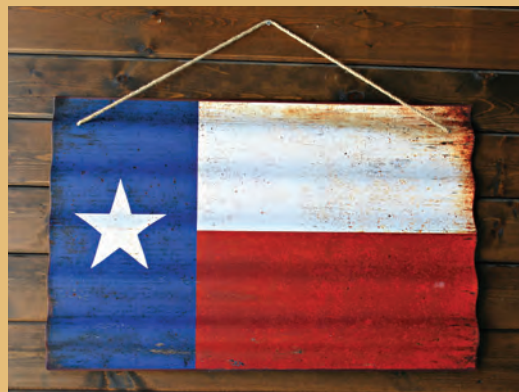
©Osamu Hoshino



©Sankei Travel of Americas



©Dream West Tours, Inc

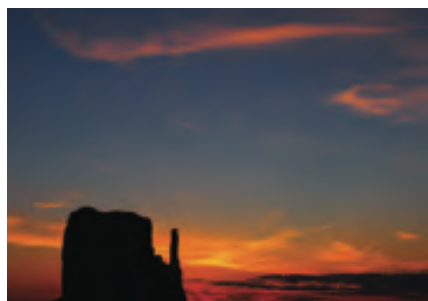


今、全米が注目! テキサス最新事情

P.09

3 FEATURE STORY

旅行のプロに聞く
**南北アメリカの
 絶景スポット**



©Yuki Sakoh

9 FEATURE STORY

現地取材レポート
**今、全米が注目！
 テキサス最新事情**



14 PEOPLE

アーティスト
セバスチャン増田氏



16 NEW BUSINESS CLOSE UP

**エアウィーヴホールディングス
 代表取締役会長 高岡本州氏**



18 TOP INTERVIEW

**おかやま工房代表取締役
 河上祐隆氏**

19 TOP INTERVIEW

**MUJI U.S.A.LIMITED
 プレジデント
 嶋崎朝子さん**

20 TOP INTERVIEW

**Wismettac Asian Foods, Inc.
 取締役会長 兼 社長
 金井孝行氏**

21 広いアメリカ 次はどこへ行く？ 小野アムステルダム道子
 1世紀に1度の皆既日食—ケンタッキー州





①



②



③

Travel Special

新春スペシャル 旅行のプロに聞く

南北アメリカの 絶景スポット

南北アメリカ大陸で見るべき景色とは？ 行くべき場所とは？
そこで旅行業界のプロフェッショナル8人に、2017年の旅行プランの
参考となる「イチオシの絶景スポット」を推薦してもらった。



④



⑤



⑥



⑦



⑧



Canada

オーロラベルト直下イエローナイフ 幻想的なスペクタクルショー

オーロラベルト直下であるイエローナイフは晴天率も高く、かつ鑑賞率も高い、世界でも名高いオーロラ鑑賞地です。実際のオーロラは宇宙で起こる現象なので、地上から見るための条件は晴れていることです。そのため、晴天率が高い時期がオーロラ観測のベストシーズンとなります。例年は8月から10月初旬、1月から4月にかけてはお天気が安定していますので、この期間が最適だと言えます。その中で特にお勧めしたいのが4月。多くの方が4月はツアーが終了していると思われていますが、実際はこの月が一番晴れが多いのです。また、真冬と異なり、さほど寒くないこともお勧めのポイントです。

私が初めてオーロラを見たのは冬でした。星空でオーロラがダンスしているような様は、まるで生きているのではないかと思えるほど幻想的で、今でもはっきりと覚えています。次に見たのは夏でした。空いっぱいのオーロラ

に加え、冬は氷に閉ざされていた湖が鏡の役割をし、湖面に映った双子のオーロラを見た時はとても得した気分になりました。

オーロラ以外のお勧めのアトラクションとしては、冬は極寒体験を満喫できる、犬ぞりやスノーモービルです。弊社パッケージの催行会社は犬ぞりレースのカナダチャンピオンがオーナーです。犬ぞり関連ツアーは他社とは比較にならないほど充実していると自負しています。夏は爽やかな快適な気候の中、自然を満喫するハイキングが楽しめます。また、名物料理としては、極北の食材、北極イワナやバイソン肉を使った料理を是非お試しください。



情報提供者：ナビツアー
アーカナダ支店長 吉村一也さん 旅行業界歴 20年



NavitOUR Canada
604-682-5885/866-682-5885
Info@navitourca.com
www.navitourca.com



South Dakota 新大統領誕生の年に訪れたい マウントラッシュモア

©Osamu Hoshino

2017年1月、アメリカ合衆国に新しい大統領が就任します。この節目の年に、是非、足を運んでいただきたい大統領に因んだ絶景スポットが、サウスダコタ州のマウントラッシュモアです。ここは、古くはヒッチコックの名作「北北西に進路を取れ」のクライマックスシーンにも登場した、アメリカを代表する4人の大統領の顔が花崗岩に刻まれた観光名所です。なんと年間で300万人もの観光客が訪れるとか。ビジターセンターでは、大統領がラベルに貼られた「プレジデンシャルソーダ」が販売されています。人気の大統領のソーダから売り切れていくそうです。

JTBで提供しているツアーでは、マウントラッシュモアからネイティブアメリカン、スー族の英雄の巨大な彫刻、クレージーホースメモリアルへと移動します。そして、スピルバーグの「未知との遭遇」に登場した岩山、デビルスタワーへ。実際にここでは

ハイキングをしながらタワーを一周します。なだらかな道なので初心者の方でも楽しみいただけます。

さらにはイエローストーン国立公園やグランドティートン国立公園の観光、幌馬車で行くウエスタンティナーショー、大人もはまるケンモアの化石採集体験まで含まれる充実のコースとなっています。個人では体験できないお楽しみが満載されているだけでなく、ベテランガイドが同行して見どころをしっかりとご案内します。

また、2017年はイエローストーンと皆既日食をセットにしたツアーがあります。大自然の中で体験する皆既日食はまた格別です。お楽しみに！

マウントラッシュモア



©JTB USA Inc.

デビルスタワー



情報提供者：JTB ルック
アメリカンツアー・エグゼ
クティブツアーコーディネーター 岩澤秀治さん
旅行業界歴 40年

JTB USA, Inc. / 800-566-5582
look@jtbusa.com / www.looktour.net

洞窟内部がうねるような独特の形状で知られるアンテロープキャニオン。写真では何度も見たことがありますが、実際に足を運んでみると、その奥行きに驚かされました。自然の水流により作り出された狭い洞窟内に頭上から太陽の光がわずかに差し込み、言葉を失うほどの神秘的な空間です。

アンテロープキャニオンはナバホ居住地内にあるため、ナバホ族のガイドさんのみが案内できる特別な場所です。内部の岩肌は光の当たり具合で出来る陰影により様々な形に見えると解説してくれたことも印象的で、例えば、サンライズオブモニュメントバレーと呼ばれている景観は、ちょうどモニュメントバレーのミトンと呼ばれる岩山の後ろから朝日が昇っているように見えるのがその名の由来と教えてくれました。

さらに、アンテロープから10分ほどの場所に、ホースシューベントと呼ばれる絶景ポイントがあります。コロラド川の侵食により長い年月をかけて自然に作られ、川の中央に浮かび上がった巨大な馬の蹄形の岩は圧巻です。これら一連のスポットはグランドサークルと呼ばれます。その中で、私は上記2カ所と共にモニュメントバレーも訪れました。ここでは天体観測も有名ですが、合わせてお勧めしたいのが「世界一美しい」と称されたこともあるほどのサンライズ。日本では見ることができない広大な荒野に昇る太陽と、その朝日を受けて時間とともに表情を変えてゆく岩山の圧倒的な存在感には言葉を失うほどでした。



Arizona アンテロープにホースシューベント グランドサークルは絶景の宝庫

© Yuki Sakoh

アンテロープキャニオン



情報提供者：IACE Travel
トラベルコーディネーター
酒匂由喜さん 旅行業界
歴 11年



ホースシューベント

© Yuki Sakoh

IACE TRAVEL / 877-489-4223
travel@iace-usa.com / www.iace-usa.com

Costa Rica

アレナル火山 ©Shinichiro Ueda

雄大な美しさ誇るアレナル火山 珍しい野生動物に遭遇

コスタリカは太平洋とカリブ海に挟まれ、富士山のような雄大な美しさを誇るアレナル火山、そして温泉やジャングルといった大自然の見所に恵まれた国です。

アレナル火山は5、6年前にも溶岩流が観察されましたが、今は落ち着いている状況です。その火山があるからこそ、温泉もあり、特に大人気なのがタバコン温泉です。ジャングルの中に滔々と流れる天然温泉は圧巻で、心身ともにゆっくりすることができ、施設内での豊富な種類の食事を楽しめます。

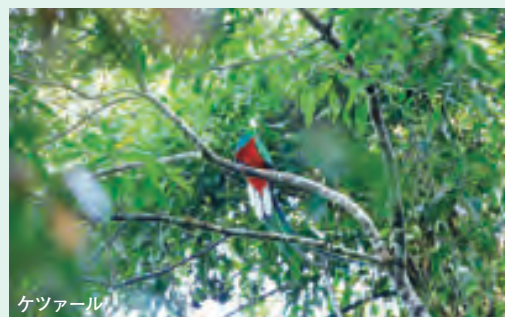
また、太平洋とカリブ海のちょうど中心に3000メートルを超える山脈があり、その両側で気候が異なること、また起伏の激しさから、多様な植生帯が存在し、地球上で確認されてい

る全生物種のおよそ5%にあたる9万5000種が確認されている野生動物の宝庫です。熱帯雨林や熱帯雲霧林といったジャングル自体も絶景ですが、そこに生息するナマケモノやハチドリ、ホエザルといった野生動物、また手塚治虫の火の鳥のモデルになったと言われるケツァールは必見です。これらの動物を発見できる確率は、ローカルガイドと行った方が断然高くなります。私たちのようなガイドはどこに野生動物たちが好きな樹木が生えているかなどを熟知していますので、珍しいケツァールに関して、ガイドの案内によりリトルアボカドの樹を目印にすることで遭遇率が高くなると言えます。

H.I.S.のおススメ「自然がいっぱい」というツアーでは、5泊6日でコスタリカの大自然を満喫する行程を組んでいます。アレナル火山で温泉を訪ね、モンテベルデ自然保護区の熱帯雲霧林で多様な動植物を観察、さらに砂浜が美しいマヌエルアントニオのビーチにも

立ち寄る充実のツアーです。

情報提供者：HIS コスタリカ・ツアーデスク
上田晋一朗さん 旅行業界歴11年



ケツァール

©Shinichiro Ueda



マヌエルアントニオのビーチ

©Shinichiro Ueda



コスタリカに生息するリスザル

©H.I.S. International Tours



タバコン温泉 ©Shinichiro Ueda

H.I.S. International Tours / 888-447-8721
withyou@his-usa.com / www.his-usa.com



Washington

心癒される海のサンセット 夏にはホエールウォッチングも

Sankei Travel of Americas
206-728-7130 / 800-801-4069
sea@sankeitravel.com / www.sankeitravel.com

サンファンの夕陽

©Sankei Travel of Americas

都会生活の喧騒から逃れ、疲れた心を癒してくれる景色が見られる場所として是非ご紹介したいのが、カナダ国境近くの小さな島、サンファンアイランドです。シアトルからは北に車で1時間半、さらにフェリーで1時間移動します。私は過去15年で5回、この島を訪れました。行くと必ずヨットハーバーからサンセットを眺めます。すると心が洗われて穏やかな気持ちになれるのです。

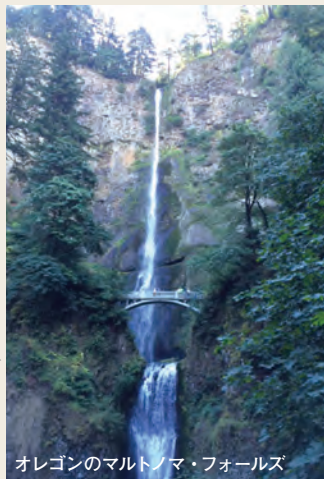
ここでは「何もしない」ことが最高の過ごし方ではありますが、赤い屋根と白壁が絵になるライトハウス(灯台)や7月にはフェスティバルも開催される、一面に広がるラベンダー畑、さらにヨットハーバーを見下ろす庭園が見事な、歴史あるホテル・テ・ハロなど見所は幾つかあります。料理はカナダに近いこともあり、フィッシュ・アンド・チップスなど魚介を中心としたものが美味しいですね。

また夏のアトラクションとしては、5月から9月のシーズンに楽しめるホエールウォッチングも人気です。ボートに乗ってクジラがいる近くまで行く方法もありますし、島から肉眼でもクジラを見たことがあります。ここはまたオルカが見られるスポットとしても有名です。弊社でもホエールウォッチングツアーの手配を行なっています。シアトルからの日帰りホエールウォッチングツアー、また島に立ち寄れるツアーもあります。



情報提供者：サンケイトラベル・シアトル支店マネージャー 鈴木智子さん 旅行業界歴20年

ロッククライマーには聖地として知られているのが、スミスロック・ステートパーク。車を停めた場所から30分ほど急勾配のトレイルを歩けば、頂上へ到達できます。そこには、モンキーフェイスと言われる一際目立つ岩がそそり立っています。ここからはスリーシスターズ、マウント・ジェファーソンをはじめ、雄大なカスケード山脈を見渡せるパノラマビューが独り占めできます。時を経て侵食された岩の形は圧巻



オレゴンのマルトノマ・フォールズ

©US-J Connect, Inc.

US-J Connect, Inc.
503-912-3706
portland@us-jconnect.com
www.us-jconnect.com

で、原生植物や野鳥観察も楽しむことができます。私は9月に行ったのですが、心洗われる景色とはこのことか、と改めてオレゴンの美しい自然に感動しました。

ここに行くにはポートランドのダウンタウンから車で3時間ほど移動することになります。ルートはいくつかありますが、途中にマルトノマ・フォールズと

いう、コロンビア河沿いにある観光名所の滝に立ち寄りたり、またその麓のレストランでマス料理を食べたりすることもできます。また、オレゴンは豊かな自然で知られていますが、ハンバーガーやピザといった典型的なアメリカ料理だけではなく、太平洋で獲れた魚介料理やアジア、地中海、ヨーロッパ、アフリカなど多国籍料理が味わえる土地でもあります。



©US-J Connect, Inc.

モンキーフェイスの岩

Oregon

猿の顔型の岩山から望む オレゴンのパノラマビュー



情報提供者：US-J Connect コーディネーター 岩向明子さん 旅行業界歴4年



California

見渡す限り一面の砂漠 インペリアル・サンド・デューンズ

©Dream West Tours, Inc.

インペリアル・サンド・デューンズ

Dream West Tours, Inc.

619-326-8525

info@dreamwestsandiego.com

dreamwestsandiego.com



©Dream West Tours, Inc.

サルベーションマウンテン

どこまでも続く砂漠の景色。このインペリアル・サンド・デューンズはサンティエゴから2時間半ほど移動したメキシコとの国境地帯にあります。ここはアラブ方面には行ったことがない私自身にとって初めて見る広大な砂漠でした。最初に行った時は童心に戻って走り回ったり、転げ回ったりしたい衝動に駆られたものです。実際、修学旅行の高校生を何度もお連れしたことがあるのですが、彼らもこの砂漠では喜んで走り回っていました(笑)。そうすることで、一気にフラストレーションを解消できるのではないのでしょうか。ここに行くまでに、別の見所のサルベーションマウンテンに立ち寄ることもできます。始まりは30年前。信心深いアーティストが藁を集め、その上にカラフルなペイントを施した芸術作品に、キリスト教の意味合いの愛のメッセージを込めたものなのです。この山には見学する人が登ったりするので、ペンキが剥げてしまうようで、永遠にペイントを続けなければならないのだとか。



情報提供者：ドリーム・ウエスト・ツアーズ代表 菅田サムさん 旅行業界歴32年

南米ボリビアにあるウユニ塩湖に行かれた皆さんがおっしゃるのが、「なぜ、もっと早くここに来なかったんだろう」ということです。それだけ圧倒的な絶景であり、見たことがない果てしない銀色の世界が広がる場所です。特に雨が降った後にできる鏡張りは必見です。ウユニ塩湖は、その名の通り塩でできており、乾いた大地の風景も良いのですが、雨が降ることで浅い湖に空が鏡のように反射する鏡張りが人気です。鏡張りを見るには11月から3月の雨季がベストシーズン。ここでの夕日、朝日、満点の星空が反射する風景は格別です。

塩湖に行くにはウユニという町から1時間ほど移動します。ウユニの町にもホテルはありますが、お勧めしたいのは塩湖近くにある塩のホテルです。塩で建物が造られたホテルが4軒ほどあり、便利さを求めるアメリカ人観光客は町のホテルに泊まるようですが、日本人観光客はせっかく塩湖に来たのだからと塩のホテルを希望されます。ただし、部屋数が限られています

ので、かなり前からの予約が必要です。

ここは塩湖自体が最大の見所です。他のアトラクションとしては、ペルーのマチュピチュやチリのアタカマ砂漠など、周辺の国と合わせて1週間から10日程度で回られるとまた楽しいかと思います。また、塩湖に行くにはラパス空港からさらに飛行機を乗り継ぎます。しかし、南米では飛行機が運休になるなど、時に想定外のことも起こりますので、ゆとりをもったスケジュールで行かれることを推奨しています。



情報提供者：アムネット・ニューヨーク パケーション課 森本晴奈さん 旅行業界歴10年

©Amnet New York Inc.

Bolivia

大空を鏡のように映し出す ウユニ塩湖の幻想的な風景



Amnet New York Inc. / 800-929-2663
vacation@amnet-usa.com / www.amnet-usa.com

現地取材
レポート

テキサス最新事情

今、全米が注目!



©Toyota Motor North America, Inc.

El Paso

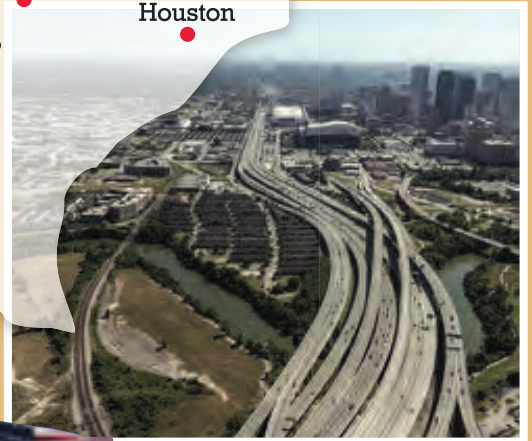
Carrollton
Frisco
Plano
Dallas



San Antonio

Austin

Houston



シエールオイル・ガスのブームに始まり、トヨタがテキサス州への本社移転を発表してからも続々と企業が進出、今まさに全米の注目の的となっているテキサス。本誌編集部では2017年1月に現地入りし、日系社会の関係者に取材を敢行。一体、どんなところなのか? 今後の可能性は? これから進出、移転する人々へのアドバイスとは? 気になる質問に答えてもらった。



ホスピタリティ溢れる多人種社会 人口急増中でポテンシャルも高い

在ヒューストン日本国総領事館

総領事 天野哲郎

テキサス州とオクラホマ州を管轄する在外公館。2015年10月の同館調べによる管轄内の在留邦人数は9,097人。現総領事の天野総領事は2016年1月に着任。
<http://www.houston.us.emb-japan.go.jp>

テキサスに大きな可能性を感じると語る天野総領事



テキサスでの在留邦人は、在留届の登録ベースで1万人前後です。その中には管轄しておりますオクラホマも含まれますが、オクラホマは500人ほどです。実際には在留届を提出されていない方もいるはずなので、実態は1万2000人~3000人くらいはいらっしゃるだろうと考えています。

邦人に関しては、比較的、企業の駐在の方が多いのが目立つかな、と思っています。グリーンカード以上の資格でいらっしゃる方は他州に比べると多くはないかもしれませんが、4、5年前にシェールオイル・ガスのブームが起こるまでは、日本人にとっては、残念ながら未知の部分が多かったようにも思います。テキサスと聞くと、カウボーイとか牛肉、NASA宇宙センターといったイメージではなかったでしょうか。

一方、(日系の)商工会は、シカゴ、ロサンゼルス、ニューヨークに比べると規模は小さいものの、最近、伸びてきています。ビジネス以外で意外だったのが、日本人の若手の芸術家に少なからずお目にかかったことです。私のイメージでは芸術といえばニューヨーク、またはロサンゼルスだったのですが、バレエやオペラ歌手として当地で活躍されている日本人がいることに大変感動しました。

実際に暮らしてみても思うのは、人種の多様性です。テキサスにはベトナム系の方が多く、100万人以上います。州の人口が2000万人ですからいかにその割合が高いかがわかっていただけだと思います。ベトナム戦争後にアメリカが彼らを引き受ける

形で、現在はしっかりとコミュニティを形成しています。その他にも中国系、インド系、韓国系の方が非常に多いです。ダラスには(米国)サムソンの本社もあります。このようにテキサスは、あまり知られていない事実ですが、アジア人にとって非常に暮らしやすい土地でもあるのです。寛容なんです。私自身もテキサスの方々のホスピタリティには感銘を受けました。初めて会ったのに10年来の友人のように温かく接してくれます。外国人にとって、ここは非常にいい場所だということを強調したいです。

ただ、どういう土地かということを外に向けて知らせる努力が足りないように思えます。しかし、実際はそのようなことをしなくても、当のアメリカ人が続々と移住してきているので、あえてその魅力を知らせる必要はないと考えているのかもしれませんが。

治安に関しては、ご存知のように銃が自由な社会ですから、私が赴任後も銃撃事件は起きております。大きかったのはダラスで数人の警官が黒人に射殺された不幸な事件です。銃に絡む事件は尽きないのが現実ですが、邦人が巻き込まれたケースはありません。皆さんもすでに認識されているのですが、治安の悪い場所には近づかないなどのことを実践されています。

総領事館としても、緊急時のネットワークを張っています。テキサスにはヒューストン、ダラス、サンアントニオと、3カ所の大きな拠点があり、それぞれの日本人会の会員のネットワークを利用して、メッセージを伝えています。しかし、それを機能させる

にもまずは在留届を提出していただくことが大変重要になります。

在留届の提出率を上げる以外にも、私が在任期間中に目標としているのが、テキサスでの日本のプレゼンスを高めていきたいということです。これが大きな課題です。正直、中国や韓国系社会には人数面では太刀打ちは出来ないのですが、日本はこういうところであるということを文化・経済の面などでアピールしていきたいと考えております。

もう1点は日本人社会の方々にさらに活躍していただくためのサポートに、イベントの後援などを通じて積極的に取り組んでいきたいということです。どのような小さなイベントであっても、可能な限り、出向いていくように努めてまいりたいと思います。

これからテキサスに進出や移住を考えている方々には「今のうちです。早いもの勝ちですよ」と申し上げたいです。主要都市に比べると不動産価格を含む物価が安いのが魅力です。法人税、個人所得税もありません。ここは共和党が目指す小さい政府のモデルケースです。人口では、全米1位がニューヨーク、2位ロサンゼルス、3位がシカゴで4位がヒューストンです。しかし、近く、ヒューストンは3位になると言われています。地理的には、ここは東海岸と西海岸、中南米への中継点でもあり、非常に便利です。日本へは日本航空と全日空がそれぞれ、ダラスとヒューストンから直行便を飛ばしています。私が思いますに、今後の成長が最も見込めるポテンシャルの非常に高い場所、それがテキサスです。

日本、全米へのアクセスよく 「生活しやすい」と実感

ダラス日本人会

会長 平井義雄

ダラス日本人会は在ダラスの日本人駐在員家族や企業に対して情報交換や補習校の運営を行っている。
godja.org/djav2/

平井会長は
2回目のダ
ラス駐在



私自身は2度目のダラス赴任です。最初は2000年から2003年の3年間、今回は2014年からダラスに駐在しています。今回赴任してきて特に感じたことは前回よりダラスが発展しており、あちこちで住宅や商業施設が建設されていることでした。企業や個人への税制もそうですが、DFW空港があり、日本や全米へのアクセスが非常に良いことが日系のみならず、多くの企業が集まってくる理由だと考えています。

ダラスの良いところは生活コストが安いことです。所得税がゼロということもあると思います。私の周りでもカリフォルニアから移転されてきた人が多くいますが、皆生活しやすいと言っていますね。またダラスの人々はとても優しく感じます。道路も広くて西海岸の様な交通渋滞もほとんどありませんので、ギスギスすることがないのかもしれない。最近では日系企業の進出予定も多く聞いていますので、今後が楽しみです。日系レストラン、ミツワ・マーケットプレイスや、紀伊國屋書店などもオープ

ンの予定とのことです。

日本人会は補習校の運営が主旨で設立された経緯があります。教育部会が中心となって駐在員家族子女の日本語能力維持のため、補習校をサポートしているほか、ダラス生活を豊かなものにするため、ソフトボール大会や秋祭りなども実施しています。さらに6者交流会といってダラス、

ヒューストン、オースチン、サンアントニオ、エル・パソ、マッカレンの6都市の日本人会の持ち回りで、イベントを開催しています。2016年はダラスが主催したパネルディスカッションなど好評でした。こうした活動は現地で生活する方の情報交換の場として大変重要だと思っています。

現在注目されているダラス、プレイノ市ですが、これから赴任予定の方、これから移転を考えている方へのアドバイスとし



6者交流会の様相

© ダラス日本人会

て、まずは自分の目で当地を見て、納得してから来られることをおすすめします。日本人会にもお気軽にご相談ください。また、昨年ジェトロ・ヒューストンのサテライト・オフィスがダラスに開設されましたので、御紹介致します。

尚、この辺りはスポーツも盛んで、ゴルフも1年中できます。一つだけ不満と言えれば、美味しい魚がなかなか手に入らないことでしょうか。



© ダラス日本人会



© ダラス日本人会

ダラス日本人会ではビジネス、文化、スポーツなどさまざまな催しを開催している

トヨタの企業文化を均一に 2017年夏、エコな本社完成予定

米国トヨタ / Toyota Motor North America, Inc. 広報担当

2014年にカリフォルニア州トーランスからテキサス州プレイノへの本社移転を発表。これまで4カ所に分散していた拠点から4000人の従業員がプレイノのキャンパスに集まる。



新社屋の完成予想図

© Toyota Motor North America, Inc.

テキサス州プレイノでの従業員数は、トータルで4000名になります。本社機能移転後に4000名分の仕事が発生するという事です。2017年夏に本社の社屋が完成予定で、アドミニストレーション、販売、マーケティング、TFS(トヨタファイナンシャルサービス)、品質管理部門などが移ります。従来の(カリフォルニア州)トーランスには、トヨタが西海岸で展開しているビジネスに関して運営する地域オフィスが残ります。

プレイノの新キャンパスは210万平方フィートの土地に7棟のビルが完成します。現在の職場環境に比べると、非常に先進的なものになり、キャンパス内であればどこでもwi-fiにつながることができるため、必ずしもオフィス内でなくても、コートヤードなどの開放的な空間で仕事をすることができます。また、建物自体はLEED認証のプラチナレベルの獲得を目指した、非常にエコフレンドリーなものになります。敷地内には1250本の樹木を移植し、ソーラーパネルを設置

して電気代の25%を太陽熱で賄う予定です。また、オフィス内のパーソナルスペースと連携作業スペースの割合は50%50%です。連携作業スペースが依然より格段に多くなっているはずですが、全体としては、半々です。

今回のカリフォルニアからテキサスへの移転の理由は、これまでカリフォルニア、ミシガン、ニューヨーク、ケンタッキーと4カ所に分かれていた拠点を一カ所に集約することで。コミュニケーションを円滑にし、カルチャーを均一にするということです。そういう意味ではノーステキサスは、それらの場所から、西からも東からも北からも近く、中心に当たります。ただし、テキサスに転勤してもらうに当たり、従業員への説明には時間をかけました。本社機能の移転を発表したのは2014年でしたからすでに3年が経っています。この間、社員をプレイノに招待して現地を見て納得してもらった上で決断してもらいました。

実は私自身(トヨタの広報担当)も以前、

学生の時にテキサスに住んでいました。その後、離れても訪ねるたびに、交通渋滞が激しくなるなど、発展していく様子が伝わってきました。テキサスを訪れたことのない方々は、一般的に「カウボーイの州」だという印象があるかもしれませんが。しかし、私が見たテキサスは「ラテンの地」でもありました。もともとメキシコの土地だったということもありますし、ラテン系の人々が非常に多いのです。テキサス州は「ロンスター」と呼ばれるように、他の州とは違う独特の雰囲気を湛えていることは事実かもしれません。

生活環境としては、非常に整備されており、娯楽面でも充実していると思います。アートディストリクトなどもあり芸術好きな方にはそこでの散策もおすすめです。

最後に地域コミュニティとトヨタとの関係性ですが、現地社会の一員として、金銭面だけでなく、社員が労働支援を行うなど、密接に関わっていくことはカリフォルニアでの姿勢と変わりません。



従業員と光田さん、キャロルトンのオフィスで。

今後10年、20年かけて 大規模日系社会の形成に期待

TsuKuRu Texas Corporation / 代表 光田一昭

2010年カリフォルニア州で設立された建設設計施工会社 TsuKuRu USA のテキサス法人。
www.tsukuru-usa.com

建設設計施工会社としてロサンゼルスで拠点を事業を行っていますが、日系企業の進出に伴い、建設業の需要が増加する

とにらみ、2015年6月にテキサス州キャロルトンにもオフィスを設立しました。現在もテキサスに社員を置いて建設業を行ってい

る日系企業はあまりないのではないかと思います。当初はカリフォルニアのオフィスから異動した社員を2名配置し、往復してい

た私を含めて計3名。約1年半後の現在は、私を入れて7名になりました。カリフォルニアのスタッフが現在8名ですので、このペースで行くとテキサスオフィスの人数が追い抜く可能性もあります。

現地での建設業の需要は増えていると感じています。現在は飲食店の建設や日本人の方が購入された家のリモデルが中心ですが、今後はオフィスや工場の建設も手がけていくことになると思います。

カリフォルニアとテキサスの仕事の違いとして感じるのは、建築基準法の違いはもちろんですが、ノーステキサスではヒスパニック系やアジア系の下請け業者が少なく、時間にあまりフレキシブルでない人が多いとい

う点です。テキサスの業者の方が当たり前の働き方なのかもしれませんが、扱っている仕事柄、難しい場面にも度々直面します。

私自身はカリフォルニアと往復しているのですが、実際に住民として住んでいるわけではありません。しかし、月に数日から数週間ほど滞在して思うのは、日本人にとっても非常に住みやすい場所だということです。韓国系、中国系をはじめアジア人も増えているようですし、アジア系レストランやマーケットも充実しています。アメリカに慣れた日本人がここに移住してもさほど不便なことはないと思います。ただし、レストランなどは夜の9時過ぎには閉まってしまうところが多いようです。また、驚いたのは小学校や幼

稚園のキャンパスでもフェンスで囲まれていないことです。カリフォルニアでの状況と比べると、ノースダラス周辺は比較的安全だということではないかと思います。

今後、テキサスにはトヨタの本社が移転しますし、10年、20年かけて日本人がますます増えていくだろうと思います。これから引越しやビジネス進出を検討されている方には、早めの決断をお勧めします。私がテキサスオフィスを作ってからこの2年弱でも土地の値段が上昇しました。

将来的にテキサスを中心にビジネスを行っていくかどうか？ それはまだなんとも言えませんが、いつかテキサス以外の州への進出もできたらと考えてはいます。



MM Mobile ダラス1号店の店内

★ Frisco

MM Mobile, Inc.

企業に優しい労働法が魅力 フリスコにも続々大手企業が移転

MM Mobile, Inc. / 新崎千裕 COO

ベライゾンの一次代理店。個人向けにはベライゾン携帯電話の販売、企業向けにはネットワーク構築などを行う。2017年1月にダラス1号店オープンし、2月にフォートワース店がオープン予定。
www.mm-mobile.com/
<http://mm-mobile-rental.com/index.php/jp>



新崎さん

ベライゾンの一次代理店として2016年5月に初めてテキサスに視察に来ました。元々はサンディエゴ、ロサンゼルス、ハワイなどでビジネスを行っていましたが、トヨタの本社がテキサス州プレイノに移転するという情報を聞きました。そこに新しいビジネスチャンスの可能性を感じたのと同時に、弊社のテキサスでのビジネス展開に興味を持ってもらったベライゾンからも支援も受けながら、進出することができました。

テキサスはこれまでビジネスを行ってきたカリフォルニア、ハワイと違って労働法が企業にとって優しいのが一番の魅力になっています。雇用関係、人件費、加えてオフィスのレント代もまだまだ廉価で新しくビ

ジネスを起こす上でメリットになっています。雇用関係ではカリフォルニアで苦労していた分、テキサス州でビジネスをする上で、今のところは特に不便さを感じることはありません。

私自身は2016年8月にカリフォルニアから引越してきました。ただカリフォルニアで恵まれていた分、プライベートでは日本食の調達思ったようにできず、日本食が恋しくなったりすることもあります。現在は一軒家で生活していますが、家の間取りの広さに驚いています。これまで狭い部屋で生活していたので大変快適です。その代わりにメンテナンスが大変です。害虫駆除や芝の手入れなど、これまであまり意識して

いなかったところで出費がかさむのが頭の痛いところです。

トヨタが移転するプレイノ、私どもがオフィスを構えるフリスコは日系企業だけでなく、米系企業の間でも注目の街です。学区の水準は全米でもトップレベルで、治安も非常に良いエリアです。そのため Chase Bank、State Farmなどの米国の大手企業の本社機能も続々と移転を決めています。

日系・米系を問わずこれからますますビジネスチャンスが広がる予感があるテキサス州の持続的な成長、発展のために、微力ながら私も頑張って貢献していければと思っています。

「アメリカには夢が転がっている。 つかめれば次につながる。」

様々な業界で活躍中の話題の人に、過去、現在、そして未来について聞く。

Text and Photos
by
Keiko Fukuda



カワイイ文化を原宿から
発信し続けるアーティスト
セバスチャン増田さん

20年後の自分に宛てた手紙

世界各地で「タイム・アフター・タイム・カプセル・アートプロジェクト(以下タイムカプセルプロジェクト)」と銘打ったプロジェクトを展開しているアーティストのセバスチャン増田さん。増田さんと言えば、ポップでビビッドな色彩のアート作品で知られる「カワイイ文化」のカリスマ的存在だ。

その増田さんが、2017年1月頭、ロサンゼルスを訪れ、NHKワールド主催の「ジャパニーズカルチャーウィーク・イン・LA」に参加、ロサンゼルス市内の2カ所で、一般向けの様々なイベントを開催した。

1月7日、ダウンタウンに近い公園、エコパークで行われたのは、過去にニューヨーク、パリやロンドンでも開催してきたタイムカプセルプロジェクト。参加者は紙に「20年後の自分に宛てたメッセージ」を書き込み、カラーペンやシール、リボン、毛糸を使って紙をデコレートし、ラップしてタイムカプセルに投入する。この日は公園にやってきた親子連れや若者が続々と参加。増田さんは彼らに気軽に話しかけながら、各自の作品とも言えるメッセージ作りを見守った。

イベント終了後に同プロジェクトの経緯について話を聞いた。「ニューヨークの国連ビルの前に、大きなキティのタイムカプセルを作ったのが大変好評で、その後も続けたいと思っていたけれども資金的な問題がありました。そんな時にNHKさんからドキュメンタリー番組制作で密着するという条件で、ドームくん型のタイムカプセルにして続けなにか、というお話をいただき、今に至ります。これまでは日本文化関連のフェスの会場でやるが多かったんですね。でも、日本の文化をわかっている人が来る場所ではなく、日本のことも僕のこと知らない人にも、このワークショップを体験してほしいという気持ちがありました。そこで、ロサンゼルスではこうした公共の場でやらせていただくことになりました」

子供の頃ワクワクした色を再現

増田さんは20年来、原宿で経営しているファッション雑貨の店のための古着の買い付けで、過去60回以上、アメリカを訪れている。

「90年代からローズボウルのフリーマーケットにも足を運んでいました。アーティストとしてアメリカでデビューしたのは2014年です。ニューヨークのチェルシーの小さなギャラリーで個展を開催した時に、レセプションになんと1000人以上の方が詰めかけてくれました。その時にアメリカという国は、面白ければそのままストレートに受け止めてくれるんだ、という手応えを得ました。これが日本だったら、どこかの大学の肩書きだとか、フィルターを通して見るところを、アメリカで何も下地がないところから大勢の人が集まってきてくれたことに感銘を受けたのです。そして、その展覧会をマイアミの美術館に移設して、巡回展を開催しました。アメリカには夢が転がっていると思いましたね。その夢をつかめれば次につながる。このプロジェクトも2年以上かけて10都市以上で開催してきました。次は世界各地からオファーをいただいています」



増田さんのカラフルなアートのルーツはどこにあるのだろうか？「原点は生まれ育った商店街です。実家がお店をやっていたので、小学校から帰ってくるかと商売の邪魔になるからと100円持たされて外に出て行くように言われていました。その時に商店街をウロウロして駄菓子屋さんや玩具屋さんに行くんです。そういうお店で見たカラフルな色のパッケージにドキドキワクワクしたものです。それが自分の中の原体験です。お祭りに行っても、綿菓子やお面の色に子供の頃だったらワクワクしたでしょう？でも大人になると何かを置きざりにしてしまったように、そういう気持ちもなくなってしまう。だから大人に対して、あの色を再現してあげれば、また子供の時の気持ちを取り戻して、未来に希望を感じられるようになるかもしれない、という思いが僕の作品には込められています」

東京オリンピックまで走り続ける

増田さんの作品をよくよく見ると、小さなおもちゃや人形はもちろん、ゴミ袋のパッケージなど意外なものも取り込まれている。「材料は世界各地で集めます。ロサンゼルスだったらダウンタウンのファッションディストリクト。最近では中国や韓国の工場に直接買い付けに行きます」

さて、タイムカプセルプロジェクトのテーマである「20年後の自分」

だが、増田さん自身は20年後をどのように描いているのだろうか？
「66歳か。どうなのかなあ。まずは2020年の東京オリンピックに向けて走り続けている状態です。原宿のカワイイというカルチャーをオリンピックまでにアピールして、日本のクリエイティブティを発信し続けます。オリンピックが終わったら、それまでの返りがあると思うのですが、ペースは落として、見る人の心に突き刺さるような作品を丁寧に作っていきたいというのが希望です。それから60歳以降は、カプセルの中身を開けて皆さんに戻していくので、それも楽しみです」

最後に生粋の日本人なのに、なぜセバスチャンなのかを聞いてみた。「20歳の頃に役者もやってみないかと言われ、適当につけた名前です。適当と言っても、今のようなスマホのアプリではなく、ゲームセンターで100円入れて情報を打ち込むとニックネームをつけてくれる機械があって、それで僕の場合、セバスチャンがゴンザレスがいいって出たんです。そのニックネームだと幸運を呼んでくれるということでした。その時にセバスチャンを選んで、ずっとこの名前です。外国の人も呼びやすいし、今思えば確かに幸運を呼んでくれましたね(笑)」



ワークショップでの増田さん。「公共の場で日本のことを知らない人にも体験してほしい」と語る。



ロサンゼルス市内の公園、エコパークで開催された「タイム・アフター・タイム・カプセル」のワークショップでの記念撮影。どーもくんも参加(写真提供：セバスチャン増田氏)

睡眠の質を追求するマットレス ベッド文化のアメリカで勝負賭ける

なぜ、ニューヨークに1号店?

日本は寝具に関しては布団とベッドと両方がありますが、アメリカはベッドの文化ですね。ベッド文化の地域で、私共の製品の評価を受けることが事業をする上で一番大事だと考え、2007年に会社を

立ち上げた当時からアメリカ進出は頭がありました。日本ではエアウィーヴはトップアスリートやホテル、エアラインで使っていただき、ブランドを構築しました。しかし、世界最大の市場であるアメリカでブランドを作り上げないことにはグローバルにはなれません。

私共は薄型のマットレスパッドから作り始めました。テレビも液晶になって非常に薄型になりましたね。テレビというのはグローバルな商品であり、液晶テレビの時代になった市場では結局、サムソンが買ってシャープが負けました。これは早くグローバル化した方が勝ったということです。薄いテレビもそうですが、薄いマットレスパッドはロジスティックコストが低い。つまり、海外に商品を送りやすいということでもあります。だから、早いうちから海外に出ようと思っていたのです。

第1号店はニューヨークではなく、ロサンゼルスを考えていました。エアウィーヴは睡眠の快適さを謳っています。つまり、ウェルネス志向の強いロサンゼルスがいいのではないかと、思ったわけです。しかし、結局ニューヨークにした理由は、ニューヨークは非常に忙しい街であり、心身のリカバリーを必要としている方が多いと考えたからです。もうひとつ、立ち上げの時にはマーケティング戦略に大きなお金を使うことができません。広告ではなくPRを中心にしていくことになります。そうすると、word of mouth (口コミ) が強いのは人々のモビリティが多いニューヨークです。

SOHOの店は開店して1年半になりますが、やはり路面店というのはブランドが認知されないと入ってもらえません。日本ではデパートというトラフィックの多い場所に置いて自然とデパートの顧客



エアウィーヴホールディングス代表取締役会長
高岡本州

に認知してもらえました。しかし、路面店の場合は目的がないと入店しないのですが、ここで売上を上げるのは大変なことです。ここで売上を上げるのは大変なことですが、ショールーム、またはB to Bの商談をするようなPRの拠点ととらえています。

アメリカでもデパートに商品を置くということも将来的にはあるかもしれませんが、非常に取引条件が厳しく、また、デパートよりもベッド専門のチェーン店の方に顧客は流れています。そういう専門店ではディスカウントをして売っていることが多い。一方、エアウィーヴの商品は睡眠の質を売っているので安売りはできません。日本ではもちろん定価で販売しています。たとえとしたら、シャネルやエルメスなどのブランドは、安売りしません。それは製品のクオリティを売っているからです。

チームUSAからの信頼 スタンフォードで研究

アメリカのオリンピックチームにはじめに接触したのは2013年です。これはコロラドにあるオリンピック委員会に出かけて行き説明をして、コーチも含めたチームUSAにエアウィーヴをお見せしました。すぐに製品の良さを理解していただき、2014年のソチオリンピックのスポンサー契約をさせていただくことができました。全幅の信頼をいただいております、今も非常にいい関係です。これもスタンフォード大学に睡眠研究を依頼し、運動選手のリカバリーにいかに関わってくるかというデータを提出したことが大きかったと思います。チームUSAのスポンサーとして、我々のような名もない会社でも受け入れてくれたことに感謝しています。チームUSAのスポンサーとしては唯一の日本企業、そして一番売上が少ない会社でもあります

(笑)。実は日本とアメリカだけでなく、中国、オーストラリア、ドイツのオリンピック委員会のスポンサーもやっているんです。

スタンフォードでの研究に関しては、2010年に睡眠研究のドクターにお願いしに行きました。なぜ、行ったか？ 2009年に早稲田大学でも研究してもらいましたが、グローバルに展開していくには、世界的に名の通った大学で研究してもらう必要があるのです。その時にドクターに言われたのが「マットレスと睡眠の質の関連性を証明する研究はなく、好みの問題ではないだろうか」ということです。しかし、私は「そんなことはない」と食い下がり、研究をお願いした結果、ドクターには「寝具のセレクトが睡眠に影響を与えることが初めて分かった」と言われました。つまり、それまでそのような研究がなかったのは、我々のように素材からすべて製造している寝具メーカーはほとんどないため製品を細かく調整できないということです。我々はメーカーとして寝具を作っています。研究の結果次第で商品を変えられるのです。素材自体も作り方も変えてイノベーションを起こすことが可能です。

アメリカ市場はエベレスト

10年後、当社がアメリカで目指す姿は、7割、8割の人に認知していただけるブランドになることです。我々が開発したエアファイバーを、他の寝具メーカーに素材として提供することもあるかもしれません。

また、現在、愛知県と滋賀県にある工場に加え、10年後にはアメリカに製造拠点を設ける可能性もあります。アメリカでは薄型だけでなく厚いマットレスも扱



っているのが、本格的に作ろうとすると物流面からもアメリカで工場を運営することは十分にありえます。

アメリカというのは商売するのにタフな国です。コンシューマーズグッズに関しては特にそうです。人種の垣塙ですから多様な価値観があり、単一のメッセージでは伝わりません。国が広いので物流費用もかかります。しかし、逆にこの国で認められるとグローバルブランドとして認識されます。日本が富士山なら、アメリカはエベレストほど差があります。エベレストを制覇できれば、次に登るモンブランも成功するのではないか、とそう思えます。

PROFILE

高岡本州

エアウィーヴホールディングス代表取締役会長。愛知県名古屋市出身。1985年に日本高圧電気株式会社に入社し、1998年代表取締役社長(現任)。2007年株式会社ウィーヴジャパン(現株式会社エアウィーヴ)を設立。2014年11月エアウィーヴホールディングス代表取締役就任。



10年後にはアメリカで1000店超のベーカリー開業支援を

おかやま工房代表取締役

河上祐隆 / Tsunetaka Kawakami

ずパンは、もう1個食べたいと手が伸びる、明日も食べたい、10年後も20年後も食べ続けたいと思ってもらえるパンです。食べ飽きることがない、ということです。しかも安全、安心であることも大切。食品添加物は一切使用していません。

リエゾンのパン屋に向く人 向かない人

リエゾンプロジェクトでパン屋の開業支援を受けていただくには、まず5日間の研修があります。その時に修了証を出せない方には支援はできません。過去の実績としては400人中10人に修了証を渡せませんでした。「この通りにやってください」と言っても、自己流で通す方ですね。リエゾンでは基本的にパン屋として未経験の方しか支援しません。と言うのも、たんぱく質が少ない国産小麦を使用してパンを膨らませるには独特の手法があり、通常のパン作りに使われるアメリカ、カナダ、オーストラリア産の小麦とは勝手が違うのです。パンの経験がある方にはすでに癖が付いているので、私たちに言われた通りにやっていただかないことにはうまくいきません。そこはきちんと説明しますので、ほとんどの方が納得されます。

アメリカ市場の可能性

私は、ヨーロッパは好きで何度も訪れましたが、アメリカには来たことがありませんでした。2年前にお話をいただき、実際にパン屋さんを見て回り、イメージと違うことに驚きました。頭の中でアメリカの

ベーカリーは日本より進んでいると思っていたのです。しかし、実際は参入のチャンスは十分ある、ということがわかり、我々の美味しいパンを多くの人に届けたいと思っています。アメリカでの開業支援に関しては、まずは日本人から始めて、アジア人、アメリカ人と対象を広げていきたいと考えています。ベーカリーを経営したいと希望される方であれば、どなたに対しても支援していきたいです。

10年後のビジョン

10年後には、日本国内にリエゾンが開業支援したベーカリーが1000軒以上に増えているのではないかと思います。それだけの需要があります。アメリカでの10年後の目標も1000軒です。日本と違って広い国ですから、州ごとに特徴も規制も異なります。ですから、その州に合わせた形で支援を行なっていかなければなりません。商品開発も地域性を考慮する必要がありますでしょう。

多忙な中での仕事の優先順位ですか？それは楽しい仕事から順番に取り組むということですよ(笑)。楽しさ、それがいつも一番に来ますね。

パン業界は変わったか？

本来であれば5年、10年と修行を積むベーカリーの技術を、我々はたった5日間で習得させるわけですから、業界から見たら脅威に思われているようです。でも現在、我々が支援した結果、営業を続けている店が120数店舗あります。パン屋というのは減少の一途で、9年前には日本国内に1万4000軒あったものが、7000か8000くらいまでに半減しています。その理由は職人が育たないこと、親の商売を継がないことなどですね。私はそういう業界を元の状態に戻そうとしているだけです。おかげさまで全国的に(リエゾンプロジェクトの)店は増えていっていますし、10年前から海外でも開業支援を始めました。

美味しいパンの定義

私が思う美味しいパンには二つあります。一つは嗜好品として、美味しいと感じられるパン。しかし、私が目指す美味しいパンとはもう一つの日常的に食べ続けられるパンです。嗜好品のパンは、ケーキのようなもので1個食べたらもう満足。私が目指

PROFILE

18歳で製パン業界に飛び込み、22歳の時に大阪で開業独立。1990年に岡山市にベーカリーをオープンし、2008年以降インドネシアを手始めに海外でのベーカリーのプロデュースと開業支援を開始。2009年、個性派小規模ベーカリーのプロデュース部門「リエゾンプロジェクト」設立。



MUJIの商品で社会に役立ち 生活を快適にするお手伝いを

MUJI U.S.A. LIMITED プレジデント
嶋崎朝子 / Asako Shimazaki

NY 旗艦店の手応え

五番街にあるニューヨークの旗艦店はおかげさまで非常に好調ですね。売り上げが計画を上回っているということと、それだけでなく広い店舗面積を生かして幅広く商品を揃えたこと自体が宣伝効果につながったこと、さらに店の入り口近くに設けたイベントスペースでの定期的なイベントの開催を通じて、MUJIのストーリーを多くの方に伝えることができていることが大きいと思います。できるだけコミュニティーに近い存在になりたいですし、それ以前に1個1個の商品で社会に役立つ、お客様の生活を便利にするということを目標に掲げています。

お気に入りの商品

商品に関しては、例えば、私のお気に入りには調理スプーンです。これが1個あるだけで、炒めることもできるし、液体をすくうこともできます。1個の商品の中にさまざまな機能を持たせることで、道具を何個も揃えなくても済みます。空間もセーブできるし、何よりエコですね。掃除道具にしても、1本のポールの先にいろいろな機能の物が

付けられて兼用できます。デザイン面でもこれをそのまま室内に置いていても邪魔になりません。このようなことがお客様の生活の役に立つことだと思うのです。

しかし、何より私の一番のお気に入りの商品は、アロマディフューザーです。アメリカだけではなく世界各地で売り上げナンバーワンの商品です。2008年に私がマーチャンダイザーとして企画開発しました。世界どこの国でも今はストレス社会です。このような癒しを与えてくれるものが人々の生活には必要です。癒しを求めることに年齢、性別、国籍は関係ありません。自分の生活に取り入れるだけでなくプレゼントとしてもおすすめです。

LA 近郊とボストンにオープン

さて、今回、ロサンゼルスでは3店舗目となるショッピングを、サンタアニータのショッピングモール内にオープンしました(グランドオープニングは2017年1月12日)。MUJIの商品は生活用品ですから、お客様の住んでいる場所に近いロケーションに出すことが理想であり、そういう意味ではアメリカでは人々の生活の一部とも言えるショッピングモール内のいい場所に出すことができました。場所柄、アジア系の方が多いので、既にMUJIのことを知っている方が多いのも大きなベネフィットになります。

1月27日にはボストンにも新店舗がオープンします。マサチューセッツでは初めての出店です。ボストンもまた旗艦店としての扱いであり、大型店です。



サンタアニータの広々とした店内

懐深く、自由なアメリカ

私自身はアメリカに来て3年です。実際に働いてみて思うのは、アメリカの方々の懐の深さですね。どうしても日本と比べてしまうのですが、アメリカのお客様は日本と比べると、自分の好きなこと、興味に対して非常に素直なリアクションを示されるとい印象です。自由で大らかだと思います。

3年後のアメリカでのMUJIの姿? よく店舗数などを質問されますが、数を増やすことだけを目的にしているわけではありません。出したお店に、できるだけ多くの幅広い層のお客様に足を運んでいただき、また商品について理解していただいた上で、何度も繰り返し店に来ていただきたいと考えています。MUJIの商品を通じて生活を少しでも改善していただけることができれば、というのが私共の願いです。

PROFILE

西友のバイヤーを経て1998年に無印良品に転職。次々にヒット商品の開発を手がけた後に無印良品の西武池袋店の店長を1年半務める。2014年2月にMUJI USAの代表に抜擢されて渡米。2017年2月には日本に帰国し、商品開発部の食品部長に就任予定。

米国での日本食の在り方は 今後10年でさらに変わる

西本貿易株式会社 代表取締役社長

Wismettac Asian Foods, Inc. 取締役会長 兼 社長

金井 孝行



金融から食の世界へ

西本Wismettacグループに参画し、今年で7年目となります。それまでは金融業界で28年間勤務をしていました。かねてからお付き合いのあった当グループの洲崎オーナーから、ある日突然「うちへ来ないか」というお誘いがありました。参画を決意した理由は、大きくふたつ。ひとつめは、食の世界に飛びこんでみたいと思ったこと。金融の世界とは違い、目で見てわかりやすく、かつ人々が興味を持ちやすいこの業界で、これまでの知識や経験を活かしてみたいと思いました。ふたつめは、オーナーの理念に共鳴したことでした。

食の世界は、必ずしも世の中の景気循環とは一致していないというのが私の考えです。例えば、車や不動産の売上は世の中の動向に影響を受けやすいのではないのでしょうか。一方、食は消費者の生活水準そのものに大きく関わっています。一個人として所得があがれば、単に空腹を満たすだけではなく、よりおいしく、自分の好みにあったものを楽しむようになります。食のスタイルそのものを楽しむこ

いった層は、米国でもどんどん広がっています。特に、食と健康の関わりを重視する動きは近年顕著です。若者を中心に健康志向がどんどん高まってきています。日本食という観点で言えば、至る所で日本の食材が使われるようになってきています。TofuやSashimiが米系レストランのメニューに取り込まれているのは今となっては珍しいことではありません。

その国の文化と融合

米国に限った話ではないですが、日本人が日本で食べ、おいしいと思うものだけが流行するとは限らないと思います。食イコール文化です。日本の味をただおしつけ、輸出していくだけではブームは起こりえません。その国の人が普段手にし、食べるものの中に入り込むことこそ鍵です。例えば、日本のカレーやラーメンだって、もとをたどればインドや中国から来たもの。でももう日本食としての地位を確立していますよね。その国の文化と融合して初めて、その地でおいしいと思ってもらえるものが生まれるのではないのでしょうか。具体的な取り組みとして、手間をかけず食べてもらえるReady to Cookの商品開発が挙げられます。近年のアメリカでは日本食を作る人、食べる人ともに、非日本人の割合がかなり増えてきていますから。そしてこれらの商品を、大学のカフェテリアや病院、介護施設などのメニューに取り込んでもらうための提案を積極的に行っています。

商品開発力と提案力が強み

その地域ならではの食事情を肌で感じ、理解し、商品を開発していく力、そしてそれを提案していく力こそ我々の強みだと思っています。近年ではプライベートブランドの開発にも取り組んでいます。地域地域にあったものを提供できるという点で、最大公約数で「いいもの」と判断され、商品化される大手メーカーのナショナルブランドとの共存をも可能とするような、よりローカル志向の商品です。過去10年で、米国での日本食の在り方は大きく変わりました。もう箸の使い方の説明は必要ないですし、皆がなんとなく日本食レストランへ行くようになりました。今後10年で、それはもっと変わっていくはずですが、ビジネス自体の在り方、仕事の質も大きく変わっていくでしょうから社員の教育にも力を入れています。弊社は創業以来105年間北米のビジネスに特化してきました。これからは北米のビジネスをのぼしつつ、全体としてはその比率を下げ、ヨーロッパやオセアニア、東南アジアにも力点を置いていくことがグループの目標です。

PROFILE

1959年埼玉県出身。1982年に早稲田大学商学部を卒業後銀行に入行。国際営業企画部、業務統括部、金融法人部を経て業務執行役員就任。2010年10月に西本グループに転職、現職就任。



「1世紀に1度の皆既日食」 —— ケンタッキー州 ——

皆既日食のベスト観測ポイント

アメリカにいてお休みの旅先を検討するのに、なかなか他州にまで目が向かないのではないだろうか？ 広いアメリカ、こんなところがあったのかという旅先を、アウトドアスポットを中心に紹介していく本シリーズ。第1回は、ほぼ1世紀ぶりに北米を横断する皆既日食で、最大食を見ることができるホプキンズビルのあるケンタッキー州西部をとり上げる。

日食は、太陽が月で隠れて欠けたり見えなくなったりする現象だが、その中でも皆既日食は太陽全体が隠される。2017年8月21日、この皆既日食がオレゴン州からサウスカロライナまで北米を横断していく。ケンタッキー州西部のホプキンズビルは太陽が最も欠けた状態で見られる(1:24:39PM 中部夏時間)ということで、町が盛り上がっている。近くにある人工湖ケンタッキー



手綱の使い方を習ったら、すぐ自然の中の外乗へ。



ボートが浮かぶケンタッキー湖を照らす太陽。これが皆既日食に。

湖もこのエリアに入る。全米のトーナメントも開催されるバス釣りで有名な湖は、ケンタッキー・ダム・ビレッジ州立公園内であって、設備の整ったマリナーやレストランの入った宿泊施設もある。釣りがてら湖上から日食を見られるかも。

ケンタッキーと言えば 馬にバーボン

140年の歴史を誇るアメリカで最も有名な競馬、ケンタッキーダービー(こちらは毎年5月の第1土曜日にルイビルで開催)があり、競走馬の育成でも有名なケンタッキー州。ちょっと馬に乗りたいたいと思えば乗馬出来る場所も多々あって、湖から車で30分ほど走ればラングレー・ホース・トレイルという乗馬用トレイルも。さすがケンタッキー、45分の外乗が18ドルと格安だ。

そして、ケンタッキー州に来たら立ち寄りたいのがバーボンウィスキーの蒸留所。

ホプキンズビルの周辺に数多い個性あるブティック・ディストラリーの一つ、MBローランド・ディストラリーは、アーミッシュの農場を改装して2009年からスモーク・コーン、大麦、ライ麦を使ってバーボンと



樽で熟成中のバーボンをちょっと試飲。

ウィスキーを造る。バーボンと名乗るには、1964年にアメリカ連邦会議で決まった「原料の51%以上がコーン」「樽熟成が2年以上」などの細かい定義を守っていないといけない。そしてもちろんアメリカ合衆国で造られていること! そんな話を聞きながら、自然豊かなケンタッキーでのバーボンウィスキー蒸留所巡りもまた楽しい。

取材・文/小野アムステッド 道子 ●世界有数のトラベルガイドブック「ロンリープラネット日本語版」の編集を経て、フリーランスへ。東京とポートランドを行き来しつつ、世界あちこちにも飛ぶ、旅の楽しみ方を中心に食・文化・アートなどについて執筆、編集、翻訳多数。日本旅行作家協会会員。
Twitter https://twitter.com/ono_travel

■ **ケンタッキー・ダム・ビレッジ州立公園**
<http://parks.ky.gov/parks/resortparks/ky-dam-village/>

■ **ラングレー・ホース・トレイルでの乗馬**
Rocking U Riding Stables at Wranglers Campground
TEL 270-942-2211

■ **MB ローランド・ディストラリー**
<http://mbroland.com>

*ホプキンズビル
テネシー州ナッシュビル国際空港から約107km

usfl.com が新しく 生まれ変わりました。

より見やすく、より速く、多彩なコンテンツをご用意しました。
ユーザーのニーズにこたえ、対応デバイスを強化。
これからもビジネスやアメリカ生活の強い味方に、
US FrontLineのウェブサイトをご利用ください。



いいね!はごちらで。
Like us on Facebook!
「USFrontLine」で
検索を。

特集・企画

ニュース・記事

連載・コラム

エンターテインメント

アメリカ生活情報

美人帝国

耳よりジョーホー

新ウェブサイト
オープンにともない
インターンを募集中。
レジメを下記まで
送付して下さい。
resume@usfl.com